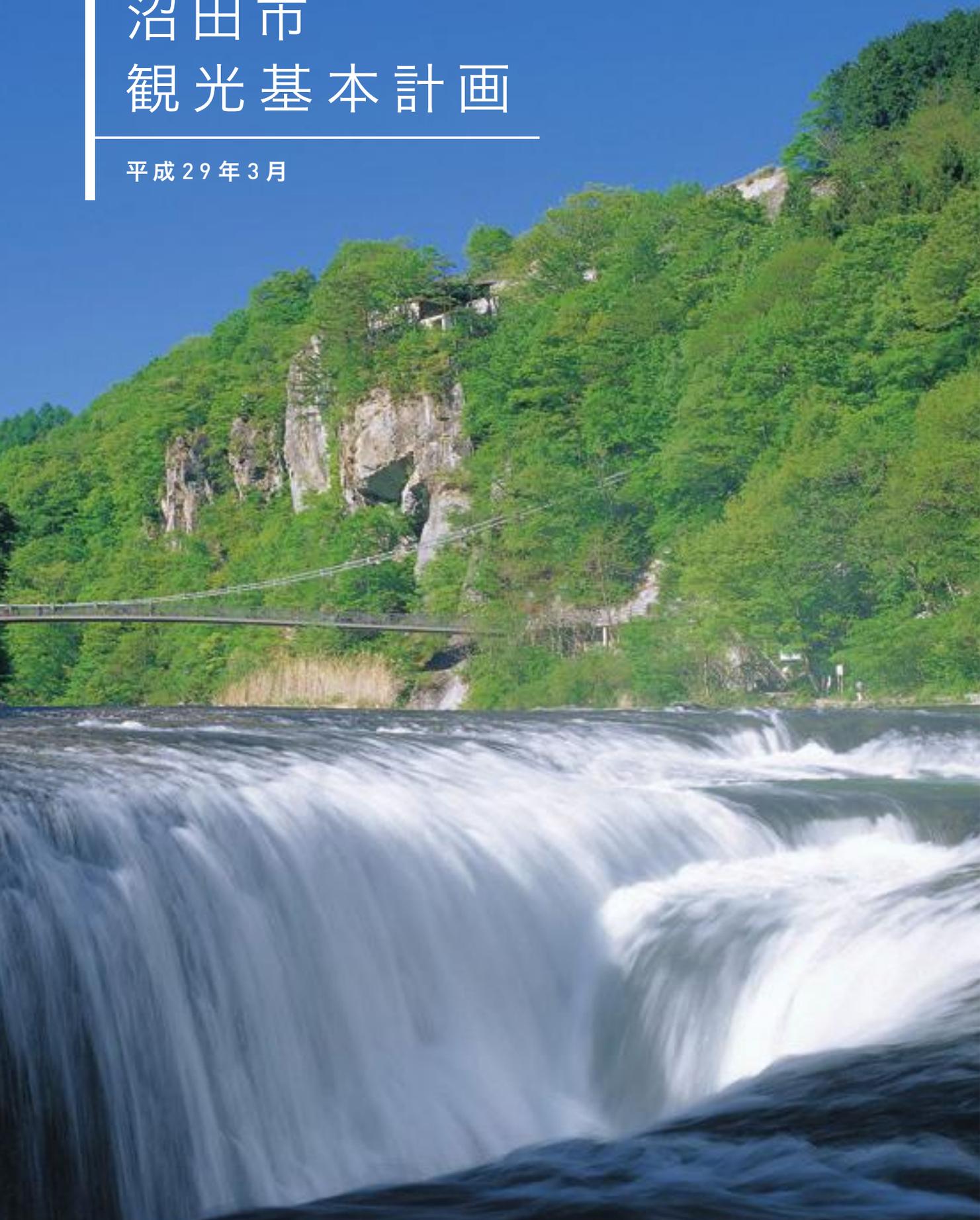


沼田市 観光基本計画

平成29年3月



「オール沼田の観光まちづくり」へ



沼田市は、東洋のナイアガラと称される「吹割の滝」や、関東有数のブナ林のある「玉原高原」に代表される豊かな「自然」を有しています。また、昼夜の寒暖差が育む良質な農産物やフルーツなどの「食」も魅力のひとつとなっており、特に、関東一の栽培面積を誇るりんごや精度の高いぶどうなど、それぞれの季節ごとに旬のフルーツを楽しむ事ができるのも大きな特徴です。

加えて、老神温泉や望郷の湯、しゃくなげの湯などさまざまな泉質を持つ良質な温泉もあり、旅行者が四季を通じて楽しむことができる豊富な観光資源に恵まれ、約400年以上前、日本随一の河岸段丘上に真田氏が築いた城下町の名残を市内の各所に見ることができ、歴史豊かなまちでもあります。

一方、全国的に人口減少が進んでいくなかで、本市においても、観光振興による交流人口の更なる増加は大変重要な課題であります。

しかし、観光を取り巻く情勢は大きく変化しており、多様化する旅行者ニーズ、増加する外国人観光客への対応など、計画的、戦略的に取り組むためには、産業・市民・行政が一体となった「オール沼田の観光まちづくり」が必要となります。

この現状を踏まえ、本市の中・長期的な観光振興に取り組むため、沼田市第六次総合計画の観光部門アクションプランとして、本計画を策定いたしました。

本計画の策定にあたり、ご尽力いただきました観光活性化推進協議会の委員の皆様をはじめ、関係各所の皆様に感謝申し上げますとともに、「オール沼田の観光まちづくり」の推進に向けて、市民の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

平成29年3月

沼田市長 横山公一

沼田市観光基本計画 目次

I	観光基本計画策定の目的	2
II	観光基本計画の位置づけと期間	3
	1 計画の位置づけ	
	2 計画期間	
III	沼田市の観光の現状と課題	4
	1 観光資源の現状と必要な施策	
	2 観光関連産業の現状と必要な施策	
IV	観光振興の理念と目標	12
	1 観光振興の理念と目標	
	2 計画目標数値	
V	観光振興の方向性と主要施策	14
	1 マーケットを想定し、戦略を持って臨む ～戦略マーケティング～	
	2 地域の魅力の向上	
	3 地域内の連携強化	
	4 広域連携の強化	
	5 オール沼田の観光まちづくり	
	6 推進体制の整備	
VI	各施策の実施時期と実施主体	22
VII	資料編	25

I 観光基本計画策定の目的

人口減少と高齢化が著しい沼田市では、定住人口の増加を図る政策だけでは人口減少を食い止めることは困難であり、観光振興により交流人口の増加を図る政策がますます重要となっています。

観光の振興によって得られる効果は観光ビジネス分野にとどまりません。観光は農林業・商工業との連携のあり方次第でその振興に密接に関わり、同時に地域の歴史や生活文化の再生・活性化とも関わりが深くなっています。

本計画は、観光を「軸」として中長期的な産業振興と地域活性化のための道筋をつけていくものであり、その目的は、観光産業の育成と新たなサービス産業の開発、および観光の波及効果としての農林業・商工業の振興、そして、郷土の自然や歴史文化に基づく市民の郷土意識の向上、さらには、観光を通じての二地域居住等の定住人口増加の入口ともなる施策です。

このような観光振興のためには中長期的な観光計画の策定が不可欠であり、そのためには以下の2点を前提として計画、戦略的な取り組みを行います。

経済社会環境、ひいては観光市場の構造変化への対応

経済社会環境が大きく変化中、国内観光市場も旅行者ニーズの多様化・高度化が進展しています。さらに国内観光需要が伸び悩む一方で、国による観光立国施策の推進もあって外国人による訪日観光需要は増加基調にあります。こうした観光市場の構造変化に的確に対応します。

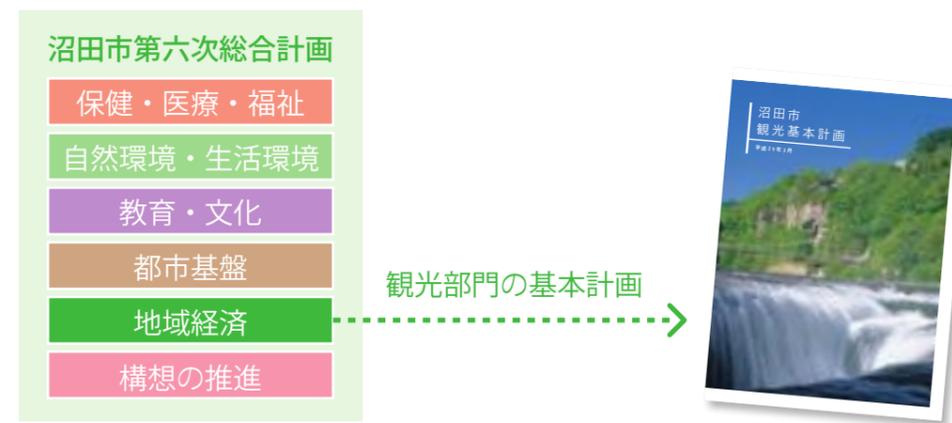
観光地間競争激化への対応

北陸新幹線開業や国内におけるLCC就航路線の拡大などにより、国内外の観光需要の争奪をめぐる観光地間競争は激化するばかりです。これまで観光振興に政策的な関心が乏しかった大都市圏立地都市すらも観光振興施策に取り組み始めています。こうした観光地間競争は言わば「地域総力戦」であり、これを勝ち抜いていくために産業・市民・行政が一体となった対応を行います。

II 観光基本計画の位置づけと期間

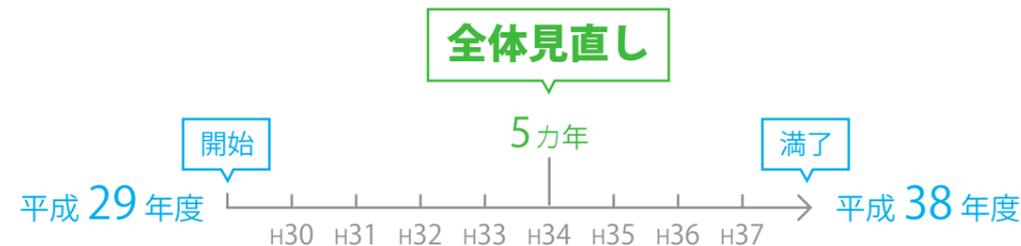
1 計画の位置づけ

本計画は「沼田市第六次総合計画」の“地域経済（ブランド力と交流による元気創生のまちづくり）”における観光部門の基本計画として位置づけられ、沼田市の中長期的な観光振興へ向けた「羅針盤」としての性格を持っています。



2 計画期間

平成29年度を初年度とし、38年度を最終年度とします。なお、毎年度、計画の進行管理を行うとともに、5カ年経過時点で全体を見直すこととします。



III

沼田市の観光の現状と課題

首都圏から2時間でアクセスできる地理条件で、自然豊かな土地が育む野菜やフルーツ、新緑や夏の草花、秋の紅葉、さらに冬のウィンタースポーツ、温泉まで、四季それぞれに楽しめる一方で、平日と週末、オンシーズンとオフシーズンとの差が激しく、特にGWやお盆、紅葉シーズンの週末等の混雑は激しく、局所的に働き手の不足に悩まされている事業者も少なくありません。

また、リピーターも実際に数多く存在しますが、その目的や特性の分析を行うことにより、具体的な施策に取り組むことができれば、それは集客増にとどまらず、地域のブランドづくりや定住人口増加へとつなげることができます。

さらには、群馬県の面積の3分の1を占める利根沼田地域の玄関口であり、同地域内の川場やみなかみ・片品エリアはもちろん、草津や伊香保、日光・中禅寺湖など、日帰り～宿泊の観光圏としても十分考えられることから、より積極的で効果的な取り組みが必要です。



沼田市および沼田観光のイメージ（平成27年度に実施したWeb調査より）

- 観光地としてのイメージが湧く人は、あまり詳しく知っていない人を含めても17%程度であり、全体として観光地イメージが低い。
- 「吹割の滝」、「老神温泉」は3割強の人が知っているが、「迦葉山」や「沼田城址公園」は1割強と低い。また高齢者ほど知名度が高いが若年層は低い。
- 訪問経験では「吹割の滝」が26%と最も高く、次いで「老神温泉」、「観光果樹園」、「玉原高原」、「川場田園プラザ」、「玉原ラベンダーパーク」が10%台が続いている。また高齢者では「吹割の滝」と「老神温泉」の訪問率が高い。
- 観光魅力で評価の高いのは、「滝や渓谷の美しさ」と「肌触りの良い温泉」、次いで、「フルーツや農産物」、「ラベンダー等の花」であり、自然資源は評価が高いが、歴史・人文資源は評価が低い。



1 観光資源の現状と必要な施策

(1) 現状

沼田市は自然豊かな歴史あるまちであり、また、農業も盛んなことから「観光農業資源」に恵まれています。

沼田市の観光資源について、系統別に整理すると下表のとおりです。自然系・産業系・歴史文化系等多彩ですが、総じて自然系および産業（特に農業）・物産・食系の資源が多いことが特徴です。

沼田市の観光資源

1. 自然系	桜（御殿桜、発知のヒガンザクラ、石割桜、山妻有のサクラなど） 河岸段丘（とその景観）、魅力的な坂 「21世紀の森」の緑と花 谷川岳等周囲の山々の景観 利根川・片品川での川遊び 吹割の滝 温泉（老神温泉、望郷の湯、しゃくなげの湯） 玉原高原・たんばらスキーパーク・たんばらラベンダーパーク 玉原湿原 皇海山等の山々 薄根の大クワ
2. 歴史・文化系	沼田城址・真田の城下町 沼田まつりと天狗 大蛇まつり・大蛇展示施設 須賀神社、迦葉山・弥勒寺
3. 集落・街系	歴史を感じさせる商店街・老舗店 十王公園
4. 産業・物産・食系	道の駅 白沢 各種フルーツ（イチゴ、サクランボ、ブルーベリー、ブドウ、リンゴ等） 各種の新鮮野菜（レタス、トウモロコシ、枝豆等） 養蜂、蜂蜜 味噌まんじゅう、みそパン 蕎麦、うどん 豚肉、とんかつ、とんかつ街道 鮎 木工品 酒蔵・清酒 えだまメンチ

<比較優位が高い、沼田ならではの資源>

自然系……………河岸段丘の景観
尾瀬や日光に近い

<他地域にもあるが活かし方次第で比較優位となる資源>

自然系……………星が美しい、ホタルが沢山飛んでいる
森林浴に適している（ハイキング、登山～尾瀬）
渓谷の美しさと水遊びができる（渓谷ハイキング、他）
自然に親しむことのできる生活環境、里山と農村の生活文化
泉質のいい温泉が多い（老神温泉、望郷の湯、しゃくなげの湯）
冬の景観とスポーツ（スキー、スノーボード）
歴史・文化系……………歴史的な要所、文化の中心であった（沼田城址、迦葉山、その他）
人が温かい・人情味がある、ストレスフリーのまち
集落・街系……………市街地の街並み。城下町は路地が多い。レトロな小径が多い
里山の集落景観（南郷等）、懐かしげな田園風景が残っている
産業・物産・食系……………フルーツ（リンゴ、サクランボ、ブルーベリー、ブドウ等）
野菜（トウモロコシ、枝豆等）
蜂蜜、蕎麦、米、水、豚肉・とんかつ

(2) 必要な施策

- 全般的課題として、埋もれた未活用の資源が多いため、今後、沼田ならではの「比較優位」資源の磨き上げ（整備・演出）が大切です。
- 首都圏から2時間でアクセスできる地理的条件の活用、地域のブランドづくりや定住人口増加へとつなげることができる施策の検討が必要です。
- 利根沼田広域圏での連携強化を図る必要があります。
- 「吹割の滝」、「老神温泉」、「道の駅 白沢」など魅力的な観光資源はあるものの、それら資源が散在しており、マイカー客・団体バス客以外には観光回遊が困難となっています。このため個々の観光資源をつなぐ市内回遊ルートに沿った景観整備や、新たな資源開発および二次交通を含めた回遊手段の整備により、「点から線へ、線から面へ」への展開が不可欠です。

2 観光関連産業の現状と必要な施策

(1) 宿泊施設

- 市街部は主にビジネスホテル系と小規模旅館があり、利用客はビジネス宿泊、地元の料飲・宴会であり、観光客利用は学生団体が中心となっています。
- 老神温泉は旅館が集積しており、沼田の観光宿泊の中心となっています。課題は消費単価の低迷や団体客の減少であり、温泉保養などの個人客の開拓が必要となっています。
- 玉原高原とその周辺はペンションが中心であり、老神温泉に次ぐ宿泊収容力となっています。東京・埼玉からのスキー客が多いものの、季節変動が大きいため稼働率が低く、このため夏季の登山や里山散策などの市場開発を行っており、夏季の入込はやや増加傾向にありますが、冬季のスキー需要減少が大きいため宿泊者数は減少しており、ペンションの廃業が出ています。

(2) 土産品販売施設（吹割の滝）

- 中・大規模の施設と小規模施設の格差が増大しています。
- 団体客の減少により、売上が減少しています。また、冬季は片品方面へのスキー客の立寄りが中心であるが、消費単価は高くありません。また、売上は食品系が中心となっています。
- このため、個人客への対応、商品開発が課題となっています。

(3) 飲食施設

- 吹割の滝エリアは、(2)と同様に団体客の減少、個人客への対応が課題となっています。
- 市街部、沿道部では、主に個人観光客にアピールしているものの、客層は地元常連客が多く観光客は全体の3割程度となっていて、個人のドライブ観光客の集客が課題となっています。
- 個人店舗は、人件費や食材費の高騰、人手不足の問題を抱えている場合が多く、また、地元客と観光客の両方を顧客としているため、単価を上げることが困難です。

(4) 観光農園

- イチゴ、サクランボ、ブルーベリー、ブドウ、リンゴなど四季を通じてフルーツ狩りを楽しむことができますが、後継者不足等により施設数の減少が著しく、事業者間の格差が増大しています。このため、各農園が単独ではなく全体でまとまって売り込んでいくことが課題となっています。

(5) 全体に共通する課題

- 人手不足と人件費高騰、食材費の高騰、施設の老朽化、後継者難およびICT分野の人材不足
- 季節変動が大きいことによる低稼働率。オフ対策。
- 事業者間の稼働率格差が大きいこと。
- 増加している外国人客の受け入れ対応、整備。



(6) 必要な施策

平成26年の入り込み客数は、289万9千人。平成23年の260万3千人に比べ11%増。地点別には吹割の滝への偏りが大きい。

入り込みの主力となっている吹割の滝と迦葉山、玉原高原の入込み減少、伸び悩みが目立つ。季節・月別には冬季・春季が弱い。特に8月への集中が著しい。

- 消費単価の伸び悩み、人件費高騰に対応して、商品の高付加価値化が必要です。
- 農林業の6次産業化と観光との結びつきを強めるために、農業生産現場の見せ方（紹介の仕方）とその工夫（加工場を含めて）および農林業体験プログラムの開発・提供の強化が必要です。
- 商工業（店舗・事業所）と観光との結びつけのために、飲食店の魅力・良さの情報発信が必要です。
- 日帰り（流動客）が多く、宿泊・滞在を増やすことが必要です。
- 季節変動が大きいため、特に春・冬対策が重要です。
- 沼田市全体および各観光資源の知名度が低いいため、大河ドラマ「真田丸」放送を契機とした「沼田市」の認知度の向上を図る必要があります。
- 知名度と訪問率が高く、一極集中となっている「吹割の滝」から市内各所への分散を図るために、誘導の工夫や二次交通の整備が必要です。
- 周辺市町村も含めた広域的な売り方（日光、尾瀬、川場、みなかみ等）と、都市・温泉地としての拠点性の活用・イメージアップが必要です。
- 来訪者、特に宿泊客の満足度の向上（「沼田観光」の品質保証）により、リピーターの増加を図ることが重要であり、これは滞在客の増加から二地域居住へと、定住人口の減少に歯止めをかけることにつながります。
- 観光誘客プロモーションの面からは、多様な市場（発地域）・客層へのきめ細かな対応のために、ターゲットに合わせた地域・施設別のコンセプト（イメージ）・コンテンツ開発が必要です。
- 情報発信では、マスメディア・旅行会社対応とともに、インターネットによる情報発信を戦略的に行うとともに、ICTシステムを維持管理できる人材確保と組織の整備が必

要です。

- 沼田市の立地条件の優位性である「各観光地へ行くのに便利な位置にある沼田」を活かして、「沼田を宿泊滞在拠点」とする「一日観光圏」の形成と訴求が必要です。
- 増加が目立つインバウンド対策では、個人（FIT）対策とターゲット市場（国・地域）の明確化とその客層に対応した商品開発、案内表示等の受け入れ体制の整備が必要であり、これは、訪日リピーターが多く、かつ沼田市と交流チャンネルがある台湾を重点市場とし、中長期的には東南アジアを狙う戦略となります。



IV

観光振興の理念と目標

1 観光振興の理念と目標

(1) 理念 オール沼田の観光まちづくり

人口減少と高齢化が著しい沼田市にとって、観光振興は地域が将来にわたって持続的に発展していくための基幹となる政策です。そのためには、観光産業・市民・行政の三者が連携した「オール沼田の観光まちづくり」が必要であり、その振興の理念を以下のとおりとします。

- ① 市民が誇り、市民が輝くまち
- ② 「森林文化都市」として、自然と歴史文化のあるまち
- ③ 観光をとおして、市民と来訪者が多様にふれあうまち

(2) 3つの観光振興像

- ① 来訪者が四季折々、何度も訪れたい、豊かな自由時間を過ごしたいと思うまち
— 「四季折々の魅力、美しい景観、多様なアクティビティ、新鮮な食材」 —
- ② 健康保養増進のまち
— 「温泉と森林、新鮮な食材」 —
- ③ 来訪者が市民と様々に触れあい・交流し、人の温もりを感じるまち
— 「市民の郷土意識、地域への誇り、地域全体での“おもてなし”」 —

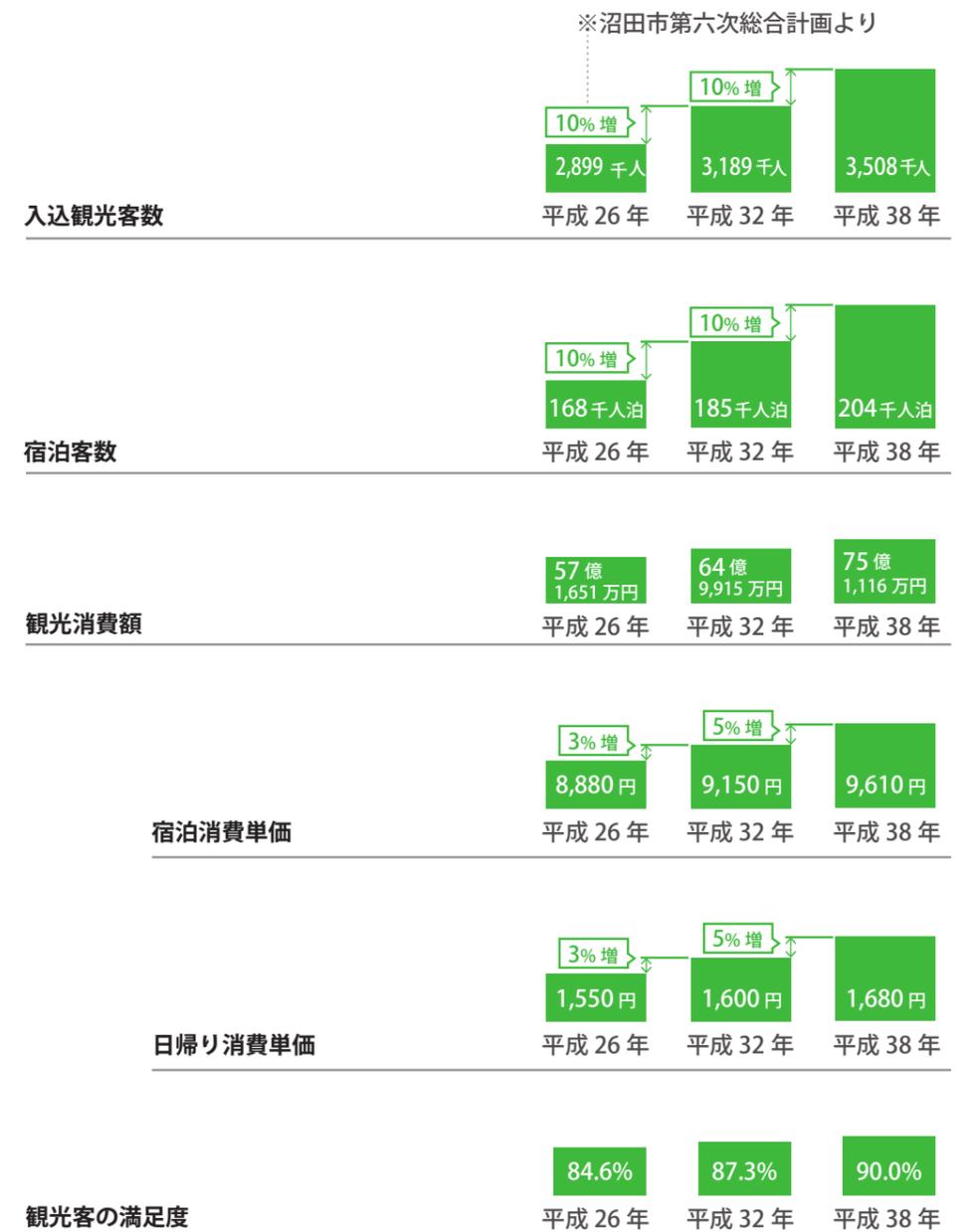
(3) 「連携」と「市民参加」を軸とした推進体制の構築

以上の理念と目標の実現のためには、観光産業・市民・行政が組織や団体の枠組みを超えた連携により、柔軟でスピードを持った計画推進ができる体制を構築します。

- ① マーケティング情報の収集と、観光産業・関連産業・市民への情報提供の強化
— 観光統計の充実、市民への観光ニュースレターなどによる告知 —
- ② 広域連携のための組織強化
— 各地域間の連携に加えて、周辺市町村との連携 —
— 一次産業から三次産業までの異業種間、行政の各部署の間での連携体制 —
- ③ 市民参加のための組織づくりと観光人材教育の強化
— 学校教育、まちづくり組織などを通じての観光への理解促進 —
— 観光産業、観光関連産業領域での起業支援 —

2 計画目標数値

全般的な「観光活性化」指標として、入込観光客数と宿泊客数、観光消費額および観光客の満足度を設定します。



前章で定めた観光振興像を実現し、数値目標を達成 するための方向性と施策を以下のように定めます。

.....

.....

1

マーケットを想定し、戦略を持って臨む ～戦略マーケティング～

ICTの活用、きめ細かな情報発信を推進していきます。
社会やニーズの変化にスピーディーに対応し、またその範囲をアジア等へと広げていきます。

4

広域連携の強化

利根沼田地域の玄関口として、地域内の中心となる観光拠点を目指します。
広域周遊のニーズを踏まえ、地域間連携の強化を図ります。

2

地域の魅力の向上

埋もれた観光資源を発掘し、既存の資源は磨き上げます。
ゾーンごとに沼田の個性を引き出し、沼田市全体のイメージアップを図ります。

5

オール沼田の観光まちづくり

連携の課題に一つ一つ向き合い、市民参加を第一に、沼田ぐるみ、全員参加の観光まちづくりを実現していきます。
市全体で来訪者へのおもてなし、交流を図ります。

3

地域内の連携強化

観光事業者、市民、行政ほか、地域内の様々な企業や団体と連携をすることで、より魅力的な商品の開発、おもてなしの向上に努めます。
周遊ルートの整備、二次交通の改良、各観光スポットへのアクセスの見直しなど、利用者のユーザビリティ向上を目指します。

6

推進体制の整備

既存の観光協会組織の相互交流・再編・強化、観光案内機能の充実など推進体制を整備します。

1 マーケットを想定し、戦略を持って臨む ～戦略マーケティング～

(1) 地域ビジョンの設定

- 地域の魅力について、ストーリー化、共有化、ブランド化を図ります。

(2) 来訪者のターゲットティング

① ターゲットの設定と見直し、モデルプランの作成

各観光ゾーンにおいて、来訪者のターゲットの設定および見直しを行い、その上で、季節、客層におけるモデルプランを作成し、パンフレット、HP等で活用します。

(例) 老神温泉立地旅館におけるターゲット客層の明確化と、客層に合わせた商品内容の工夫

- 高齢夫婦・若者・ファミリー：年間通して、多種多様なフルーツ（リンゴ、サクランボ、ブルーベリー、ブドウ）を育むまち
- 高齢夫婦・女性グループ：旬の新鮮野菜に恵まれたまち（各種野菜、トウモロコシ、枝豆、蜂蜜、蕎麦、米、水）
- ファミリー・高齢層：春秋の森林浴に適したまち、星が美しくホテルが飛び交うまち
- 若者・ファミリー：多彩なウィンタースポーツが楽しめるまち

② 外国人観光客の誘致と積極的な受け入れ対応

- 広域観光ルート形成のため、国、県、近隣町村との連携推進
- 台湾を主たるターゲットとした国際交流の推進
- 観光・飲食・小売り関係事業者レベルの受け入れ意識と対応力の向上
- 多言語案内表示の整備

(3) 情報発信

① 誘客プロモーション

イベントへの参加出展、HPやSNSの積極的活用

首都圏、関西圏、県内主要都市等、距離に応じたきめ細かなプロモーション戦略

② 地域イメージの発信

- きめ細かな情報発信
- 市場、客層による訴求イメージ・コンテンツ・ツールの使い分けの工夫
※対象客層およびコンテンツとして、滞在客、野外スポーツ体験、農業体験
- 対象市場・客層を踏まえたイメージ訴求
多様なイメージを多様な客層に訴求

③ 利根沼田のファンづくり

2 地域の魅力の向上

(1) 既存観光資源の魅力向上

① 老神温泉・吹割の滝ゾーン

- 健康美容の泉質（老神温泉）アピール
- 老神温泉周辺遊歩道の整備（川遊びポイント含む）と体験プログラム開発
- 南郷温泉のイメージアップと曲屋の活用～外国人向け日本文化紹介の拠点
- 吹割の滝における、トイレ等の受入基盤の整備
- 望郷の湯を含めた道の駅・白沢のより効果的なアピール

② 玉原高原・迦葉山ゾーン

- 玉原高原における案内表示の整備と湿原の保全
- 「天狗の寺」として迦葉山のイメージアップとさらなる活用、案内表示等誘導の促進
- ラベンダーパークと玉原湿原の結びつけの工夫
- 民宿・ペンションのアピールポイントの明確化
蕎麦など料理面、「合宿」など客層面、自然ガイドなど「体験魅力」面

③ 沼田公園を中心とする市街地ゾーン（歴史文化ふれあいゾーン）

- 真田氏、土岐氏等の歴史文化資源の発掘・整備
- 市街部の老舗&名物店舗・歴史的でレトロ家屋等の「まち歩き」での活用
- 沼田公園を拠点とする魅力ある市街部まち歩きルートの設定
- 沼田城および沼田公園に関わる史実の掘り下げとその情報発信
- 市街部を拠点とした「1日観光圏」の設定～利根沼田広域圏も含めて

(2) スムーズな周遊基盤づくり

① 交通基盤の充実、二次交通利便性の向上

- 利用しやすさに関する調査を行う。関係者による検討会の設置

② トイレ、標識、ユニバーサルデザイン、インバウンド対応

- 全面的な調査・検討を行い、優先的なものから改修等行います。

(3) 良好な景観整備（風景づくり）

- 景観の魅力を高めるルールづくり
「観光地」ならではの魅力ある自然・里山・田園・集落・市街地の修景および景観形成の推進
- 河岸段丘を周遊する散策コース等の整備
- 吹割の滝周辺における修景、遊歩道の動線整備
- 老神温泉街周辺の散策コース等、環境整備
- 花めぐりマップ等による散策コースの設定

(4) 自然を楽しめる環境整備

- 自然との触れ合い環境の充実
- 自然環境の保全、再生、美化
- エコツーリズムの推進

3 地域内の連携強化

(1) 観光交流を活かした街のにぎわいづくり

- 商店街や沼田公園の整備・活用
- 既存の祭り等の観光客へのアピールの強化
- 観光交流型企画の実施

(2) 観光交流・滞在プログラムの充実

- ① 農林業・商工業と観光の連携推進
 - 見せる場、体験する場としての農林業・商工業の活用
- ② 観光農園等における体験と滞在（休憩と飲食等）の魅力づくり
 - 一般農地のビューポイント、見せ方、営農促進
 - 農林業体験プログラムのメニュー開発、ガイド人材育成
 - 自然や歴史、農林業・商工業を活かした多様な観光体験商品の開発と通年観光利用の促進
 - 春夏秋冬、特に春および冬の体験商品開発
- ③ 文化資源の活用
 - 重要文化財等を回遊する観光コンテンツの整備
 - 生方記念文庫や旧沼田貯蓄銀行で行われるイベントとの連携
 - 文化施設を活用したイベントの推進や連携

(3) 地域の食と物産の魅力向上

- 既存の郷土料理の見直しや地域メニューの深化
- 宿泊施設の付加価値として地場農産物等の活用
- 既存の特産品の紹介・販売促進に向けた工夫

(4) 地域資源を活かした周遊ルートの整備・開発

- ① 吹割の滝、老神温泉、迦葉山・玉原高原、市街部を有機的に結ぶルートの整備
 - 河岸段丘、望郷ライン、道の駅白沢、迦葉山、ルート周辺立地の飲食・物販店舗のイメージアップ
- ② 線（ルート）としてのイメージアップ
 - とんかつ街道、フルーツ街道、片品川渓谷ルート、歴史文化ルート、広域サイクリングとウォーキングルート
ハイキング、ウォーキング、登山ルートについては皇海山などの登山系、玉原高原散策などの高原系、雨乞山、戸神山、三峰山、河岸段丘散策などのテーマ系
- ③ 上毛高原、沼田駅からの公共交通の利便性の改良
バス路線とダイヤ、観光乗合タクシー等
- ④ ICT活用、マップ製作、観光案内サイン等

4 広域連携の強化

(1) 広域圏を対象にした商品、滞在プログラムの開発・提案

- 尾瀬・谷川や登山・温泉・街道等を絡めたプログラムの開発・提案
- 「真田街道」を中心とする「真田観光圏」(仮)の形成とイメージアップ
- 若山牧水や生方たつゑ等、文化人の歌碑めぐり

(2) 滞在中における情報の提供

- 広域パンフレットの作成や情報の共有
- 案内窓口の機能整備
- ICTやSNS活用による情報提供やツールの開発

(3) 広域連携推進の強化

- 協働事業の実施や、協議会等の機能強化
- 広域観光推進母体づくりへ向けた利根沼田広域観光振興組織の整備
- 姉妹都市(下田市、フュッセン市)との積極的連携

5 オール沼田の観光まちづくり

(1) 地域の課題の共有

- 理念や目標、計画の共有

(2) 住民参画の促進

- 観光まちづくりに関する情報の発信、共有
- 誰でも参加できる仕組みづくり
- 住民の観光意識の向上と、おもてなし力の向上
- フォトコンテスト等の開催による、沼田のイメージアップ

(3) 小中高生の郷土意識向上と観光への理解向上による交流促進

- 風土教育、地理歴史文化の教育と実践
- 伝統行事や町内単位の祭りの活性化積極的支援
- 町内単位の祭りを含む伝統行事の年間スケジュールの作成、公開

(4) 観光まちづくりに関わる人材の育成

- 研修、勉強会、市民向けワークショップの計画的実施
- 観光ガイドの育成

(5) 観光交流推進

- 継続的な交流プログラムの拡大
- 観光交流型コンテンツの開発
- 交流を次につなげるための仕組みづくり

6 推進体制の整備

(1) 観光推進組織の強化

- 既存の観光協会組織の相互交流、再編・強化
- 観光商品開発・プロモーション・観光案内機能の整備
- 観光振興に関わる組織的・制度的担保

(2) 計画遂行の管理

- 観光基本計画の進行管理（観光活性化推進協議会）

VI

各施策の実施時期と実施主体

注)実施時期は平成29年度基準

注)実施主体は、行政：主として市 事業者団体：観光協会・商工会議所・商工会・JA等
 事業者：観光商工事業者・農林業者 市民・団体：一般市民・市民団体

施策概要	実施時期			実施主体			
	3年以内	5年以内	10年以内	行政	事業者団体	事業者	市民・団体

1

戦略マーケティング	実施時期			実施主体			
	3年以内	5年以内	10年以内	行政	事業者団体	事業者	市民・団体
(1) 地域ビジョンの設定 ・地域の魅力について、ストーリー化、共有化、ブランド化を図る		●		●	●	●	●
(2) 来訪者のターゲットニング ・ターゲットの設定と見直し、モデルプランの作成 ・外国人観光客の誘致と積極的な受け入れ対応		●		●	●	●	
(3) 情報発信 ・誘客プロモーション ・地域イメージの発信 ・利根沼田のファンづくり	●			●	●	●	●

2

地域の魅力の向上	実施時期			実施主体			
	3年以内	5年以内	10年以内	行政	事業者団体	事業者	市民・団体
(1) 既存観光資源の魅力向上 老神温泉・吹割の滝ゾーン ・健康美容の泉質（老神温泉）アピール ・老神温泉周辺遊歩道の整備と体験プログラム開発 ・南郷温泉のイメージアップと曲屋の活用 ・望郷の湯を含めた道の駅・白沢のより効果的なアピール 玉原高原・迦葉山ゾーン ・玉原高原における案内表示の整備と湿原の保全 ・「天狗の寺」として迦葉山のイメージアップ ・ラベンダーパークと玉原湿原の結びつけの工夫 ・民宿・ペンションのアピールポイントの明確化 沼田公園を中心とする市街地ゾーン ・真田氏、土岐氏等の歴史文化資源の発掘・整備 ・老舗&名物店舗・歴史的でレトロ家屋等の「まち歩き」での活用 ・沼田公園を拠点とする魅力ある市街部まち歩きルートの設定 ・沼田城および沼田公園に関わる史実の掘り下げとその情報発信 ・市街部を拠点とした「1日観光圏」の設定～利根沼田広域圏も含めて		●		●	●	●	●
(2) スムーズな周遊基盤づくり ・交通基盤の充実、二次交通利便性の向上 ・トイレ、標識、ユニバーサルデザイン、インバウンド対応	●	●		●	●	●	●
(3) 良好な景観整備（風景づくり） 景観の魅力高めるルールづくり ・自然・里山・田園・集落・市街地の修景および景観形成の推進 良好な景観を活かした散策コースづくり ・河岸段丘を周遊する散策コース等の整備 ・吹割の滝周辺における修景、遊歩道の動線整備 ・老神温泉街周辺の散策コース等、環境整備 ・花めぐりマップ等による散策コースの設定		●		●	●	●	●
(4) 自然を楽しめる環境整備 ・自然との触れ合い環境の充実 ・自然環境の保全、再生、美化 ・エコツーリズムの推進	●			●	●	●	●

3

施策概要	実施時期			実施主体			
	3年以内	5年以内	10年以内	行政	事業者団体	事業者	市民・団体

地域内の連携強化	実施時期			実施主体			
	3年以内	5年以内	10年以内	行政	事業者団体	事業者	市民・団体
(1) 観光交流を活かした街のにぎわいづくり ・中心商店街や沼田公園の整備・活用 ・既存の祭り等の、観光客へのアピールの強化 ・観光交流型企画の実施	●			●	●	●	●
(2) 観光交流・滞在プログラムの充実 ・農林業・商工業と観光の連携推進 ・観光農園等における体験と滞在の魅力づくり ・文化資源の活用	●			●	●	●	●
(3) 地域の食と物産の魅力向上 ・既存の郷土料理の見直しや、地域メニューの深化 ・宿泊施設の付加価値として地場農産物等の活用 ・既存の特産品の紹介・販売促進に向けた工夫	●			●	●	●	●
(4) 地域資源を活かした周遊ルートの整備・開発 ・吹割の滝、老神温泉、迦葉山・玉原高原、市街部を有機的に結ぶルートの整備 ・線（ルート）としてのイメージアップ ・とんかつ街道、フルーツ街道、片品川渓谷ルート、歴史文化ルート、広域サイクリングとウォーキングルート ・ハイキング、ウォーキング、登山ルートについては、皇海山などの登山系、玉原高原散策などの高原系、河岸段丘散策などのテーマ系 ・上毛高原、沼田駅からの公共交通の利便性の改良 ・バス路線とダイヤ、観光乗合タクシー等 ・ICT活用、マップ製作、観光案内サイン等	●			●	●	●	●

4

広域連携の強化	実施時期			実施主体			
	3年以内	5年以内	10年以内	行政	事業者団体	事業者	市民・団体
(1) 広域圏を対象にした商品、滞在プログラムの開発・提案 ・尾瀬、谷川、登山、温泉、街道等絡めたプログラムの開発・提案 ・「真田街道」を中心とする「真田観光圏」（仮）の形成 ・若山牧水や生方たつ糸等、文化人の歌碑めぐり協働事業	●			●	●	●	●
(2) 滞在中における情報の提供 ・広域パンフレットの作成や提供の共有 ・案内窓口の機能整備 ・ICTやSNS活用による情報提供や交流ツールの開発	●			●	●	●	●
(3) 広域連携推進の強化 ・協働事業の実施や、協議会等の機能強化 ・広域観光推進母体づくりへ向けた利根沼田広域観光振興組織の整備 ・姉妹都市（下田市、フュッセン市）との積極的連携	●			●	●	●	●

VI

各施策の実施時期と実施主体

VI

各施策の実施時期と実施主体

施策概要	実施時期			実施主体			
	3年以内	5年以内	10年以内	行政	事業者団体	事業者	市民・団体

5

オール沼田の観光まちづくり	(1) 地域の課題の共有							
	・ 理念や目標、計画の共有	●			●	●	●	●
	(2) 住民参画の促進							
	・ 観光まちづくりに関する情報の発信、共有	●			●	●	●	●
	・ 誰でも参加できる仕組みづくり	●			●	●	●	●
	・ 住民の観光意識の向上と、おもてなし力の向上		●		●	●	●	●
	・ フォトコンテスト等開催による、沼田のイメージアップ	●			●	●		
	(3) 小中高生の郷土意識の向上と観光への理解向上による交流促進							
	・ 風土教育、地理歴史文化の教育と実践	●			●			
	・ 伝統行事や町内単位の祭りの活性化積極的支援	●			●	●		●
	・ 町内単位の祭りを含む伝統行事の年間スケジュールの作成、公開	●			●	●		●
	(4) 観光まちづくりに関わる人材の育成							
	・ 研修、勉強会、市民向けワークショップの計画的実施	●			●	●		
	・ 観光ガイドの育成	●			●	●		
	(5) 観光交流推進							
・ 継続的な交流プログラムの拡大	●			●	●			
・ 観光交流型コンテンツの開発	●			●	●			
・ 交流を次につなげるための仕組みづくり	●			●	●			

6

推進体制の整備	(1) 観光推進組織の強化							
	・ 既存の観光協会組織の相互交流、再編・強化		●		●	●		
	・ 観光商品開発・プロモーション・観光案内機能の整備	●			●	●		
	・ 観光振興に関わる組織的・制度的担保	●			●			
	(2) 計画遂行の管理							
・ 観光基本計画の進行管理（観光活性化推進協議会）	●	●	●	●				

資料編

VII. 参考資料

1. 観光関係事業所経営者ヒアリング結果（平成27年7月）

(1) 宿泊施設

- ・市街部にホテル・旅館、老神温泉に旅館、玉原高原にペンション、迦葉山入口に民宿が立地。
市街部：ホテル4軒、旅館3軒
老神温泉：旅館16軒（うち100人以上収容5軒）、日帰り専用旅館1軒
玉原高原：ペンション13軒
迦葉山：民宿4軒、他、コテージ付きキャンプ場
その他 旧白沢に旅館2軒、旧利根に旅館6軒、ペンション1軒
- ・エリアごとに現状を捉えると、次のとおり。

①市街部

- ・施設の性格により、ビジネス宿泊主体、料飲・宴会主体、学生合宿主体。
- ・客室稼働40%台、60%台、70%台
- ・宿泊客数および売り上げの傾向は、減少、横ばい、増加等、施設タイプにより分かれる。
- ・共通する悩みは人手不足、食材費の高騰、施設の老朽化。後継者難の施設（廃業予定）もあり。
- ・地域の観光振興課題としてPR・宣伝強化、目玉づくり

②老神温泉

- ・客室稼働はおおむね40%台。中には30%台のケースもあり。
- ・宿泊客数・売り上げ傾向は横ばい気味のところ、増加傾向のところ。宿泊客や売り上げが減少傾向のところはあまりみられない。
- ・悩みは、消費単価の減少、宴会の減少、人手不足、人件費高騰、ICT分野の人材不足、オフ対策、施設の老朽化など
- ・地域の観光振興課題として、オフ対策

③玉原高原と周辺

- ・客室稼働は20%未満、20%台。埼玉および東京発が圧倒的。
- ・宿泊客数・売り上げ傾向は、減少・横ばい・増加とさまざま。ただ「増加」施設もペンションエリアで廃業施設が出てくるので、その分がプラスに働くという意味。
- ・登山や自然散策目的の宿泊がやや増加傾向。
- ・オン（スキーシーズン）とオフ（6,7,8,11月）の差が著しい。
- ・悩みは、オフシーズン対策、施設・設備の老朽化（反面、改修資金がない）、主要設備が壊れたら廃業する予定のケースもある。
- ・地域の観光振興課題は、観光PR・宣伝強化、案内標識の整備。山麓の施設もスキー客が多いが、経年的には宿泊は減少傾向。
予約は直通電話のほか、OTA事業者経由のものも多い。

(2) 土産品販売施設（吹割の滝）

- ・比較的中規模～大規模な施設は、売り上げは横ばいか増加傾向
- ・小規模施設は売り上げ減少、消費単価も減少気味。
- ・売り上げの8～9割は「食品」系。
- ・悩みは、人手不足、人件費高騰、オフ対策等。オフ対策は、地域の観光振興課題としてもあげられている。
- ・冬はスキー客が多いが、スキー客は土産を買ってくれない。
- ・近年は台湾人客が増えている。

(3) 飲食施設

①吹割の滝

- ・来店客数および売り上げは横ばいか増加傾向。台湾人客が増えている店舗もあり。
- ・平均消費単価はおおむね1千円台。
- ・人気メニューは店舗によって相違がある。釜飯/丼もの/そば系

- ・悩みは人手不足、人件費高騰、諸経費高騰、施設の老朽化、後継者難、オフ対策等
- ・地域としての振興課題は、外国人客の誘致、観光PR・宣伝、食の魅力づくり、新規土産品開発

②その他

- ・とんかつ街道加入、国道沿い立地店舗の場合、入店客数・売り上げともに増加傾向の店舗がみられる。消費単価は1千円台。
- ・悩みは人手不足、施設の老朽化、仕入れ原材料費の高騰。
- ・客層は常連が多く、観光客は3割程度。
- ・玉原高原方面立地「そば」提供のA店の場合、入店客数・売り上げともに増加傾向。平均消費単価は1千円台。反面、仕入れ原材料費の高騰と運転資金の不足、施設の老朽化→投資資金不足、オフ対策が悩み

2. 主な観光地点における入込客数の推移

主な観光地点における入り込み客数			
観光地点名	H26	H23	H26/H23
迦葉山玉原高原	482,240	468,260	1.03
ラベンダーパーク	108,024	122,990	0.88
スキーパーク	198,566	172,240	1.15
リング狩り	73,810	71,630	1.03
望郷の湯	210,482	197,521	1.07
初穂の湯	30,370	30,560	0.99
座・白沢	127,322	132,365	0.96
老神温泉	182,909	150,763	1.21
吹割の滝	831,400	668,100	1.24
しゃくなげの湯	171,949	167,317	1.03
南郷市場（直売所）	48,298	50,983	0.95
皇海山	2,343	2,640	0.89
南郷の曲屋	11,625	8,752	1.33

3. 観光客アンケートに見る来訪観光客の特性

- ・平成26年の6・8・10月に実施したアンケート調査より、老神温泉、吹割の滝における入り込み観光客の主な特性をみると次のようになっている。

①老神温泉宿泊客

<発地>

- ・東京と埼玉をあわせて3～5割の市場。
- ・千葉・茨城・神奈川をあわせて2～3割はある市場。「その他」→栃木・新潟も一定の市場。
- ・個々のホテル旅館の戦略は別として、関東圏および新潟県は老神温泉全体としては「まんべんなく」意識しておく必要あり。

<旅行日程>

- ・時期により相違あり。
○6月：大半が1泊客 → 「宿泊サービスの内容+前後の観光魅力訴求」
○8月：連泊が目立ってくる→老神に連泊させられる滞在観光魅力が不可欠
○10月（休日・平日）は1泊客が多い。周遊客の連泊化～老神を拠点に周辺観光促進～が必要。

<来訪経路>

- ・ヘビーリピーターも多いが、「初めて」が非常に多い。
- ・訴求魅力を絞り込んで、知名度・イメージアップを図ることが大切。

<同行者と旅行目的>

・6月・10月は「夫婦で温泉」、また「友人同士で親睦」を、8月は「家族で親睦」という傾向がうかがえ、そうした利用特性を踏まえた「シーン(場面)」の訴求が必要。

＜立ち寄り観光地＞

・宿泊客が立ち寄った観光地は次のとおり。時期によって異なるが、吹割の滝がかなり多い。他、川場や尾瀬、日光。

＜手配方法＞

・6、8月を中心にインターネット経由の利用客が多いが、宿泊施設に電話も2、3割。電話対応は依然としてきわめて重要。

＜老神温泉の総合的な満足度＞

・相対的に「満足」が7～8割と多いが、「大変満足」は少なめ。

総合的な満足度					
	6月		8月	10月	
	土曜	日曜	土曜	土曜	日曜
1. 大変満足	35.5	26.1	32.4	40	20
2. まあ満足	51.6	43.5	51.4	33.3	50
3. どちらでもない	12.9	19.6	10.8	0	12
4. やや不満	0	4.3	0	0	8
5. 非常に不満	0	0	0	6.7	4

＜老神温泉への再訪希望＞

・再訪希望は6～7割。決して高いとは言えない。特に8月の「何とも言えない」が3分の1を超えているのは問題。上記の「満足度」と関連。

②吹割の滝入り込み客

＜発地＞

・東京、埼玉、茨城、さらに「その他」も多く、「誘致圏」は広い。

＜来訪経験＞

＜旅行日程＞

・日帰り客、1泊客がほぼ半々。

・宿泊旅行者の泊まり先は、6月は老神温泉が10～20%、8月は20～30%、10月は50%以上。

他ではみなかみが10～15%。

「老神宿泊＋吹割の滝」パターンは多い。

＜立ち寄り観光地＞

・6月は、川場、日光が10%強みられるのみ。他はほぼなし。回遊はあまりみられない。

・8月は日光が20%前後、尾瀬・老神・玉原（ラベンダー）・川場・みなかみが（曜日によるが）10%強。日光絡みが目立つ。また玉原ラベンダーとの回遊も注目される。

・10月は老神が30%前後、川場が20%前後、道の駅白沢が10%前後、日曜は玉原が10%あまりとなっている－玉原の紅葉と滝見物。

＜満足度＞

・満足度はかなり高く、「大変満足」「まあ満足」が合わせて7～8割。再訪希望も多い。

沼田の主な観光資源

	皇海山	群馬、栃木県境にそびえる雄峰で、日本百名山の一つとして全国に知られています。
	戸神山	形のいい三角形が特徴で、頂上から 360°のパノラマが楽しめる眺望自慢の山です。
	三峰山	テーブル状の珍しい形が目を引く山で、中腹の河内神社はかつて沼田城主の信仰が厚かったと言われていいます。
	子持山	太古に活発に活動した古火山で火山地形の名残が観察できる天然の奇勝です。
	迦葉山	巨大な天狗面で有名な弥勒寺の後ろにそびえる山で、頂上は南側の眺望が開け、戸神山や三峰山、子持山などを一望できます。
	鹿俣山	玉原高原の東に位置する山で、山頂からの眺望も良好です。
	尼ヶ禿山	「小尾瀬」と呼ばれる玉原湿原の西にそびえる山で、ブナ林を抜ける遊歩道も整備されており、家族連れで楽しめる山です。
	雨乞山	よく整備された登山道は、勾配も緩やかで家族でハイキングを楽しむには最適な山です。
自然	吹割の滝	利根町追貝西方の片品川本流にあり、左岸側から流入する坪川（たにがわ）栗原川の間に位置しています。吹割渓では、小沢凝灰岩、吹割溶結凝灰岩を基盤として鱗飛の滝、吹割瀑などの滝が分布しており、河床縦断形で大きな遷急（せんきゅう）点を形成しています。栗原川合流点より吹割瀑までの間は深い峡谷（V字谷）となり、吹割瀑より浮島付近までは広い河床を形成しており、「千畳敷（せんじょうじき）」と呼ばれ、河床には甌穴（おうけつ）が数多く見られます。吹割瀑は河床をU字に削る形で流れ落ちる全国でも稀少な滝であり、「東洋のナイアガラ」と呼ばれます。滝周辺には屏風岩、般若岩、獅子岩などと呼ばれる様々な天然の造形があり、滝と一体となりまたとない自然美を構成しています。
	河岸段丘	片品川沿いに利根川と合流する前の下流域で段差が深くはっきりとした河岸段丘が発達していて、地理の教科書に掲載されるほど有名です。市街地は河岸段丘の上に発達し、玄関口である JR 上越線沼田駅との高低差は約 80メートルもあります。この河岸段丘は、椎坂峠や雨乞山、子持山などの高い場所からはっきりと確認することができます。
	玉原湿原	玉原湿原は、武尊山の山麓に広がる日本海型ブナ林に囲まれている湿原です。植生の珍しさから尾瀬にたとえられ「小尾瀬（こおぜ）」と呼ばれており、ミズバショウを始め、四季を彩る草花を見ることが出来ます。
	ブナ平	標高約 1,300 mに位置するブナ林で、春の新緑、秋の紅葉だけでなく四季を通じた魅力が人々を引きつけます。
	御殿桜	沼田公園内にあり、沼田城の天守閣が 5 層の雄志を誇っていた頃に植えられ、今に残る沼田城形見の名木であり、沼田城跡のシンボリックな樹といえます。推定樹齢 400 年といわれ、根は古塁の石垣をしっかりと抱き、春ごとに寂寥の色をたたえた花を開いて興亡の歴史を語り続けています。
	発知のヒガンザクラ	樹齢約 500 年と推定され、樹高は 15メートル、枝張り東西に 17メートル、南北に 22メートルほどあって、県の天然記念物に指定されています。発知地区を見渡す高台にあり、苗代を作るころに開花することから「発知の苗代桜」とも呼ばれ親しまれています。
	上発知のシダレザクラ	上発知地区の田の塚上に立つシダレザクラ。シダレザクラは極めて美しい樹形であり、残雪で白い玉原の山々とのコントラストが素晴らしく、そして根元の赤い前掛けをしたお地蔵様がワンポイントになっており、毎年多くのカメラマンが訪れています。
石割桜	大石を割いて伸びている大きな根は見事で、白沢地区の歌「白沢よいとこ」にも登場し、住民に親しまれているカスミザクラ。「見る人のためにはあらで おくやまにおのがまことを 咲くさくらかな 読人不知」の添え歌があります。	
山妻有のサクラ	山妻有（やまつまり）大明神社殿脇にある巨木で、伝承によると、正平年間（1346～1370）に新田義宗の妻子が当地に滞在した形見の桜といわれています。中心部は空洞化しているものの、沼田市では特筆すべき桜の古樹で、市内では最大級のエドヒガン。毎年春には近隣のソメイヨシノに先駆けて開花します。	
薄根のオオクワ	畑地の中にあるヤマグワで、ヤマグワでは日本一の巨樹といわれています。根元周囲 5.67メートル、樹高 13.65メートルで、樹齢は推定 1,500年です。真田伊賀守が幕府に領地を没収された後、貞享 3年（1686）に前橋藩の家老高須隼人が石墨村を再検地した際、この大クワを検地の標木にしたといわれています。幹が太く容姿端正なことで、「養蚕の神」として永くたたえられてきました。現在、世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」などを含んだ「ぐんま絹遺産」に登録されています。	
温泉	老神温泉	日光男体山の神との戦いで傷を負った赤城山の神が発見し、その傷を癒したとされる温泉で、片品渓谷沿いに老舗の旅館やホテルが軒を連ねています。
	白沢高原温泉「望郷の湯」	赤城山と赤城高原を正面に望む景勝地に佇む、道の駅白沢内にある日帰り温泉施設「望郷の湯」。露天風呂からの眺望はまさに絶景。片品川により形成された国内有数の規模を誇る河岸段丘が遙か眼下に、そして正面にはどっしり構える赤城山が広がっています。
	南郷温泉「しゃくなげの湯」	良質な温泉が自噴し、源泉 100%掛け流しが自慢のしゃくなげの湯。林業が盛んであるため、施設全体に地元の檜や杉がふんだんに使われており、ぬくもりが感じられます。檜材を贅沢に使った「檜風呂」、吹割の滝をイメージした「岩風呂」でその良質な温泉を楽しめます。併設のレストランでは、地元産の手打ち蕎麦がとても好評です。
祭り	沼田まつり	須賀、榛名両神社神輿の渡御をはじめとして、町みこしの共演、山車（まんど）行列、千人おどり、子供みこし行列のほか、大天狗面をみこしに仕立て約 300人の女性だけで担ぐ「天狗みこし」とうの行事が行われ、8月3日～5日の3日間、20万人以上の人出で賑わいます。

VII

参考資料

VII

参考資料

	柳波まつり	童謡作家「林柳波」にちなんだまつりで、歩行者天国になった本町通りで童謡コンサートなどが開かれます。
	白沢ふるさとまつり	白沢地域の7地区から集まった神輿の競演や、地元特産品の飲食サービスも行われます。
	とねふるさと風のまつり	伝統的な祭りを中心に、模擬店舗が多数出店する交流イベント。夜には約2,800発の花火が打ち上げられます。
	老神温泉大蛇まつり	大きな蛇の形をした神輿を担いだ男女が、温泉街を練り歩きます。
人物	久米民之助	沼田藩倉内（現東倉内町）の武家屋敷に生まれ、工部大学（現東京大学）卒業。実業家として山陽線をはじめ、台湾・朝鮮など国内外の鉄道事業に携わるとともに、故郷沼田地域の開発にも力を入れました。当時は荒地だった沼田城址を私財と熱意をもって整備し沼田公園としました。
	林柳波	童謡作詞家。明治薬科大学図書館長。材木町に生まれ、明治薬学校（現明治薬科大学）時代から詩歌の世界に情熱を燃やしました。鈴木三重吉の「赤い鳥」運動に共鳴し、「おうま」「うみ」「はたるこい」「たなばた」ほか千編以上の童謡を作詞しました。
	おのちゅうこう	本名は小野忠孝（ただよし）。詩人・童謡作家。白沢村高平に生まれ、大正末期から詩作と児童文学を志し、河井醉茗（すいめい）に師事、処女詩集「牧歌的風景」を出版。主な著作は童話「氏神さま」「風は思い出をささやいた」「風にゆれる雑草」など。椎坂峠に自筆の「望郷」の詩碑が建てられています。
	生方たつへ	歌人（雅号:たつ彖）。三重県に生まれ、生方誠（せい）（のちの沼田町長）と結婚後、沼田に移住。歌集「山花集」を出版後、短歌の領域を広げた「白い風の中で」で読売文学賞受賞し、婦人公論・毎日新聞歌壇などの選者を務めました。「野分けのやうに」では最も権威のある「遼空賞」（ちょうくうしょう）を受賞。
歴史	真田氏	後北条氏が豊臣秀吉により滅亡した後、真田信之が初代沼田城主となり、2代信吉、3代熊之助、4代信政と続き、5代信利が閉門・改易となるまで真田氏は91年間沼田を統治しました。信之は信吉に沼田城を譲り、上田城に移った後に松代に移封となり、その後明治維新まで真田家は存続しました。
	大蓮院（小松姫）	大蓮院は本多忠勝の娘で名は小松姫といい、家康が養女にして、天正十七年（1589）に真田信幸（之）に嫁がせました。天正十八年七月に信幸（之）が沼田城主となり、慶長五年（1600）の関ヶ原の戦いには徳川方につきました。西軍につくことになった父の昌幸、弟の幸村が佐野犬伏から沼田に帰る途次に沼田城を訪れた際、城を守り入城を拒んだことで女丈夫とうたわれました。元和六年（1620）に病み、二月に療養のため江戸から草津に来る途中の同月二十四日武蔵国鴻巣で死亡しました。48歳でした。同所で火葬して分骨し、同所の勝願寺・沼田の正覚寺・上田の芳泉寺にそれぞれ葬られました。
	沼田城址	沼田城は、天文元年（1532）に三浦系沼田氏十二代万鬼斎顕泰が約3年の歳月を費やして築きました。当時は蔵内（倉内）城と称し、沼田市街地発祥のななめで、当市の歴史の起点でもあります。築城して48年後の天正八年（1580）に、武田勝頼の武将真田昌幸が入城し、城の規模を広げました。天正十八年（1590）に昌幸の嫡子信幸（之）が沼田領二万七千石の初代城主となり、その後五代91年の間真田氏の居城となります。また、慶長年間には五層の天守閣を建造し、城を核とした町割がされるなど、城下町としての形態が完成しました。天和元年（1681）に真田氏五代藩主信利が江戸幕府に領地を没収され、翌二年一月に沼田城は、幕府の命により完全に破却され、その後の天守閣の再建はされませんでした。その後、本多氏が旧沼田領177カ村のうち46カ村・飛地領合わせ四万石の藩主として入封し、幕府の交付金で城を再興し三の丸に屋形を建てました。次いで、黒田氏2代、土岐氏12代の居館となりましたが、明治になって版籍奉還し、屋形も取り壊されました。時を経て本丸・二の丸跡が、現在の沼田公園に変貌しました。
	城鐘	寛永十一年（1634）に沼田藩二代藩主真田信吉が沼田で鑄造させ、沼田城三の丸の楼に掛けて時報に用いられました。天和元年（1681）に真田氏が改易となり、城破却の際、堀に埋められるところを平等寺が譲り受け、その後、明治三十一年（1898）頃から沼田町の時鐘となりました。「この鐘の音は領内領民を安らかにし、領主の長久を祈るもの…」という意味の鑄造銘と平等寺の梵鐘となった由緒の補刻もあり、美術的にも優れています。
	旧生方家住宅	生方家は、沼田藩御用達の薬種商で、始祖は沼田近在の屋形原出身であったといわれていますが、沼田に定住し薬種商を営むようになった時期は明らかになっていません。旧生方家住宅は妻入・板葺の町家でしたが、その様式・技法から見て17世紀末頃に建築されたと考えられ、東日本における古き町家造りの代表的な遺構です。江戸末期の元治元年（1864）の大修理をはじめとして数回の改築・増築を経て現代に至っています。
	旧土岐邸住宅洋館	127年間にわたり沼田藩主を務めた土岐家の子孫が東京都内に新築した洋館で、平成2年に移築されました。平成9年に国の登録有形文化財（建造物）に指定されています。
食べ物	りんご	関東一の栽培面積を誇り、市内に約130軒のりんご園を有します。
	ぶどう	市内に40軒以上のぶどう園があり、8月下旬から約2ヶ月間営業されます。
	味噌まんじゅう	沼田市はもちろん、群馬県内でも古くから食され愛されている食べ物で、餡の入っていない薄い素まんじゅうを竹串に差し、砂糖や水飴などで甘くした濃厚な味噌だれをつけて火に炙ったものです。焼かれた味噌の香ばしいにおいが食欲を呼びます。群馬県南部では焼きまんじゅうとも呼ばれています。
	とんかつ	昔から養豚業が盛んだった白沢地区を中心に、国道120号線沿いにとんかつを提供するお店が増えました。
	えだまメンチ	沼田市の特産「枝豆」がたっぷり入ったメンチカツです。おいしくてヘルシーな「えだまメンチ」、地元の利根実業高等学校の生徒が考案・開発しました。
	だんご汁	小麦粉を練って丸めてちぎっただんごを地元産の野菜と一緒に煮込んだ鍋料理であり、沼田市では古くから食べられてきた郷土料理でもあります。醤油味や味噌味、洋風とお店ごとに違う味を楽しむことができます。

沼田市観光活性化推進協議会

第1回協議会	平成27年5月15日	沼田市役所中会議室	・役員の選任について ・今後のスケジュールについて
第2回協議会	平成28年12月16日	沼田市役所中会議室	・沼田市観光基本計画（案）について ・パブリックコメントの実施について
第3回協議会	平成29年2月7日	沼田市役所第一委員会室	・パブリックコメントの結果について

沼田市観光活性化推進協議会ワーキンググループ

第1回	平成27年12月8日	沼田市役所第二会議室	・経過説明と今後のスケジュールについて
第2回	平成28年2月16日	沼田市役所第三会議室	・観光振興に向けた課題の検討について
第3回	平成28年4月22日	沼田市役所第三委員会室	・沼田市の観光振興の理念と目標の検討について
第4回	平成28年6月17日	沼田市役所中会議室	・沼田市の観光振興の理念と目標の検討について
第5回	平成28年8月9日	沼田市役所中会議室	・沼田市の観光振興の理念と目標の検討について
第6回	平成28年9月30日	沼田市役所第三委員会室	・沼田市の観光振興の理念と目標の検討について
第7回	平成28年11月4日	沼田市役所中会議室	・沼田市観光基本計画（案）について
第8回	平成28年11月18日	沼田市役所中会議室	・沼田市観光基本計画（案）について

沼田市観光活性化推進協議会及びワーキンググループ合同会議

	平成28年7月1日	沼田市中央公民館 第2講義室	・沼田市観光基本計画の策定について ・意見交換
--	-----------	-------------------	----------------------------

沼田市観光活性化推進協議会委員名簿

No.	役職	氏名	団体等名	職名
1	会長	羽田 耕治	横浜商科大学	商学部 観光マネジメント学科 教授
2	副会長	平井 良明	沼田市観光協会	会長
3	委員	大野 正人	高崎経済大学	地域政策学部 観光政策学科 教授
4	//	大竹 秀子		元教育委員
5	//	鈴木 圭子		元市議会議員
6	//	細内 律子	トランス・タイム	
7	//	小尾 孝男	利根町観光協会	会長
8	//	竹内 健二	(株)東急リゾートサービス	玉原東急リゾート 総支配人
	//	平間 洋治	(株)東急リゾートサービス	前玉原東急リゾート 総支配人
9	//	諸田 勇	(株)白沢振興公社	代表取締役
10	//	井上 孟雄	(株)利根町振興公社	代表取締役
11	//	矢端 祐康	東日本旅客鉄道(株)	沼田駅長
	//	藤井 常男	東日本旅客鉄道(株)	前沼田駅長
12	//	阿部 正治	関越交通(株)	取締役企画部長
13	//	千明 公男	沼田エフエム放送(株)	専務取締役局長
14	//	小曾根 一雄	沼田商工会議所	前専務理事
15	//	遠藤 剛	沼田市東部商工会	事務局長
16	//	小野 幸広	沼田市物産振興会	前会長
17	//	尾崎 信敏	利根沼田農業協同組合	沼田支店 次長
18	//	斎藤 祐二	利根沼田振興局利根沼田 行政県税事務所	所長
19	//	中村 一喜	沼田市	経済部長
	//	柄原 豊彦	沼田市	前経済部長

沼田市観光活性化推進協議会 ワーキンググループ名簿

No.	氏名等	所属等	備考
1	上石 幸大	めっけるかい利根沼田	
2	加藤 正行	東和銀行本店	
3	金子 麻耶	老神温泉	
4	木内 修一	沼田市りんご組合	
5	小林 琢哉	沼田ネクスト	
6	多田 陽一郎	玉原東急リゾート	
7	為野 大地	沼田青年会議所	
8	豊野 はるみ	沼田商工会議所女性会	
9	永井 寛之	沼田市観光協会青年部	
10	西田 俊太郎	利根沼田フィルムコミッション	
11	萩原 忠和	利根町観光協会	
12	林 良久	利根郡信用金庫	
13	原田 俊祐	原田農園	
14	星野 くみ子	利根沼田農業協同組合	
15	藪原 幸子	FM-OZE	

沼田市観光基本計画

編集 沼田市経済部観光交流課
〒378-8501 群馬県沼田市西倉内町780
TEL.0278-23-2111(代表)
URL. <http://www.city.numata.gunma.jp/>

